

網走南部 AS01 の結果概要

地区名：AS_1 青葉

1001 林班に小班 9月11日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ハルニレ・オニグルミ)		緩斜面	東	1	2	2008-12年 3.6	累積 3.7	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	39 /200 m ²	0.648 m ² /200 m ²	22 /200 m ²	食痕: 7/22	32%	14/200 m ²	7/39	18%(5%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1/200 m ²	0/1	0%				34	54%・67.6・50%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ハルニレ	6	0.380	3	2
オニグルミ	2	0.113		
ミズナラ	1	0.055	1	
イタヤカエデ	21	0.047	9	2
オヒョウ	4	0.022	4	3
全体	39	0.648	22	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	11		
ヤチダモ	3		
キタコブシ	2		
オオバボダイジュ	1		
オニグルミ	1	1	
全体	18	1	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.362	53.5%	67.6	10
オシダ	8	0.035	6.8%	51.5	1
コンロンソウ	20	0.014	4.0%	34.2	2
サラシナショウマ	8	0.008	2.1%	38.4	0
エゾカラマツ	2	0.001	0.2%	71.5	0
全体		0.424	69.5%		



清里町西部(青葉担当区)のオサウシの沢林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)の二次林に調査区を設定した。常緑針葉樹の人工林に隣接し、農地との距離も近い。調査区の立地は緩い凹斜面でやや湿潤なため、ハルニレが優占する。立木本数ではイタヤカエデが多く、オヒョウやオニグルミなどの落葉広葉樹が見られる。林床は比較的背の低いクマイザサが優占し、オシダやコンロンソウなどの林床植物が生育する。直近の SPUE は 3.6 となっている。林道沿いの高茎草本には食痕が顕著にみられ、調査区内にもシカの糞が見られた。下枝がある立木は 22 本あり、このうち約 3 分の 1 に食痕が見られた。オヒョウやハルニレを中心に樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はオニグルミ 1 本のみで、食痕が見られなかった。それより小さいもの(ミズナラの当年実生など)では、食痕は見られなかった。稚樹が少ないのは、陽樹以外の母樹ないことと、ササの被圧によるところが大きいと考えられる。林床植物ではクマイザサに食痕が多く見られた。

網走南部 AS02 の結果概要

地区名：AS_1 青葉

1004 林班か小班

9月11日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ハルニレ・ケヤマハンノキ)	緩斜面	東北 東	1	2	2008-12年 2.8	累積 3.6	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200㎡	0.810 ㎡/200㎡	30 /200㎡ 食痕:14/30 47%		26/200㎡	5/53 9%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m³/m² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200㎡	2/5 40%				31	3%・43.7・ 8% 0.406・0.373(18.19)・0.020

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ハルニレ	7	0.326	3	1
ケヤマハンノキ	4	0.136	3	
カラマツ	1	0.081		
オヒョウ	7	0.078	5	2
オオバボダイジュ	1	0.045		
全体	62	0.810	35	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
エゾマツ	6		
シウリザクラ	3	3	2
オニグルミ	2	2	
全体	11	5	2

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/㎡)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クサソテツ	18	0.170	27.8%	61.4	0
オシダ	10	0.145	21.1%	68.9	0
フッキソウ	18	0.030	12.4%	24.4	0
トドマツ	1	0.017	1.0%	170.0	0
クマイザサ	12	0.013	3.0%	43.7	1
全体		0.406	74.7%		



清里町西部(青葉担当区)のオニセツ林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。オニセツ沢川に隣接する。やや湿潤な環境のためハルニレが優占し、ケヤマハンノキやオヒョウなどの落葉広葉樹に加えて、エゾマツが混生する。林床は、クサソテツやオシダが優占し、クマイザサは生育するがわずかである。直近の SPUE は 2.8 だが、累積では 3.6 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 30 本あり、半数近くに食痕が見られた。また、オヒョウやハルニレを中心に樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラとオニグルミの計 5 本で、シウリザクラに食痕が見られた。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。また、シダやフッキソウが多いことについては、湿潤な土壌条件を反映したものと思われる。

網走南部 AS03 の結果概要

地区名：AS_1 青葉

1004 林班つ小班

9月11日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(オヒョウ・オニグルミ)		緩斜面	北東	1	2	2008-12年 2.8	累積 3.6	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	0.793 m ² /200 m ²	22 /200 m ²	食痕: 7/22	32%	12/200 m ²	5/52	10%(2%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200 m ²	0/3	0%				26	6%・46.6・38%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
オヒョウ	10	0.212	2	2
オニグルミ	2	0.163		
モイワボダイジュ	4	0.106	3	
ケヤマハンノキ	4	0.084	1	
イタヤカエデ	17	0.082	8	2
全体	59	0.793	25	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	8		
オニグルミ	2	2	
キタコブシ	1	1	
ヤチダモ	1		
全体	12	3	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
フッキソウ	16	0.117	40.7%	28.8	0
オシダ	10	0.028	5.9%	47.8	2
クマイザサ	8	0.026	5.6%	46.6	3
トドマツ	1	0.012	1.5%	79.0	0
ヨブスマソウ	3	0.003	0.6%	49.3	0
全体		0.196	57.9%		



清里町西部(青葉担当区)のオニセツ林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。オニセツ沢川に近く、また付近にはエゾマツが優占する針葉樹林がある。やや湿潤な環境のためオヒョウが優占し、オニグルミやモイワボダイジュなどの落葉広葉樹が混生する。林床は、フッキソウやオシダが優占し、クマイザサは生育するがわずかである。直近の SPUE は 2.8 だが、累積では 3.6 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 22 本あり、約 3 分の 1 に食痕が見られた。また、オヒョウやイタヤカエデを中心に樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はオニグルミとキタコブシの計 3 本で、食痕は確認できなかった。林床植物ではクマイザサとオシダに食痕が確認された。

なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。また、フッキソウやオシダが多いことについては、湿潤な土壌条件を反映したものと思われる。

網走南部 AS04 の結果概要

地区名：AS_1 青葉

1023 林班い小班

9月12日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ケヤマハンノキ・ヤチダモ)	平坦	なし	1	1	2008-12年 3.8	累積 3.9	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	33 /200 m ²	1.394 m ² /200 m ²	21 /200 m ²	食痕:17/21 81%	11/200 m ²	5/31	16%(6%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	104 /200 m ²	37/52 71%				40	0%・ - ・ -%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ケヤマハンノキ	9	0.896	7	
ヤチダモ	2	0.149		
イタヤカエデ	3	0.135	1	1
イチイ	2	0.072		2
キハダ	1	0.056		
全体	33	1.394	22	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	48	48	33
オガラバナ	2	2	2
イタヤカエデ	1	1	1
ハルニレ	1	1	1
全体	52	52	37

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
オシダ	17	0.256	37.8%	67.8	0
シラネワラビ	7	0.102	13.8%	74.0	0
イッポンワラビ	15	0.080	18.7%	43.1	0
エゾスグリ	2	0.022	1.8%	123.0	1
クサソテツ	4	0.016	2.9%	55.3	0
全体		0.523	92.3%		



清里町南部(青葉担当区)のタラタツペ林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くにタラタツペ沢(タラタツペ川)が流れる。やや湿潤な環境のためケヤマハンノキが優占し、ヤチダモやイタヤカエデなどが混生する。林床は、オシダをはじめシダが多く、クマイザサなどササ類は生育しない。直近の SPUE は 3.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 21 本あり、このうちの 81% に食痕が見られた。また、イチイやイタヤカエデを中心に樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 52 本で、このうちの約 70% に食痕が確認された。林床植物ではエゾスグリに食痕が確認された。

なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。また、シダ類が多いことについては、湿潤な土壌条件を反映したものと思われる。

網走南部 AS05 の結果概要

地区名：AS_1 青葉

1022 林班い小班 9月12日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(キハダ・ハルニレ)	平坦	なし	1	1	2008-12年 3.0	累積 3.3	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	80 /200 m ²	0.742 m ² /200 m ²	45 /200 m ² 食痕:18/45 40%		56/200 m ²	7/72 10%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	144 /200 m ²	48/72 67%				55	0%・ - ・ -%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
キハダ	6	0.333		
ハルニレ	1	0.170		
シウリザクラ	45	0.104	35	3
エゾマツ	8	0.050	5	1
イタヤカエデ	3	0.041		1
全体	80	0.742	50	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	68	64	42
ハシドイ	5	5	4
ツリバナ	2	2	2
キタコブシ	1	1	
トドマツ	1		
全体	77	72	48

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
オシダ	15	0.110	25.0%	44.1	0
シウリザクラ	9	0.087	6.6%	132.7	4
ヤマドリゼンマイ	10	0.045	9.3%	49.0	0
キタコブシ	3	0.043	3.0%	141.7	0
エゾノクロクモソウ	6	0.022	10.3%	21.2	1
全体		0.385	83.0%		



清里町南部(青葉担当区)のタラタツペ林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くにタラタツペ沢(タラタツペ川)が流れる。やや湿潤な環境でキハダが優占し、ハルニレやシウリザクラなどが混生する。林床は、オシダなどのシダやシウリザクラなどの稚樹が多く、クマイザサなどササ類は生育しない。直近の SPUE は 3.0 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 45 本あり、このうちの 40%に食痕が見られた。また、シウリザクラやイタヤカエデを中心に樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 72 本で、広葉樹の 67%に食痕が確認された。林床植物ではエゾスグリに食痕が確認された。

なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。また、シダ類が多いことについては、湿潤な土壌条件を反映したものである。

網走南部 AS06 の結果概要

地区名：AS_2 緑

1040 林班い小班

9月12日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ・イタヤカエデ)	平坦	なし	2	1	2008-12年 3.8	累積 4.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	19 /200 m ²	0.629 m ² /200 m ²	8 /200 m ² 食痕:4/15 27%		6/200 m ²	5/23 22%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	182 /200 m ²	52/91 57%				45	0%・ - ・ -%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	8	0.512	3	2
イタヤカエデ	4	0.360		
ヤチダモ	2	0.181		
エゾマツ	7	0.090	4	
モイワボダイジュ	1	0.056	1	
全体	38	1.257	22	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	88	88	51
イタヤカエデ	3	1	1
キタコブシ	2	2	
トドマツ	2		
全体	95	91	52

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
オシダ	18	0.186	33.5%	55.6	0
シウリザクラ	13	0.049	7.6%	64.2	9
ヤマドリゼンマイ	3	0.019	4.0%	48.7	0
イッポンワラビ	8	0.019	5.6%	34.4	0
ヨブスマソウ	7	0.013	2.4%	56.1	0
全体		0.331	70.0%		



清里町南部(緑担当区)のアタクチャ林道沿いに広がる針広混交林(針過混交林)に調査区を設定している。近くにアタクチャ川が流れる。トドマツが優占し、エゾマツも多く生育するが、やや湿潤な環境のためヤチダモなども混生する。林床は、オシダをはじめシダが多く、クマイザサなどササ類は生育しない。直近の SPUE は 3.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 8 本/200m²あり、このうちの 27%に食痕が見られた。また、トドマツに樹皮剥ぎ(角こすり)も認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 91 本で、このうちの 57%に食痕が確認された。

なお、ササの植被が薄いのはこの付近一帯の特徴で、屈斜路火山の火砕流堆積物の上に成立した植生であることが要因と考えられる。また、シダ類が多いことについては、湿潤な土壌条件を反映したものである。

網走南部 AS07 の結果概要

地区名：AS_2 緑

1070 林班い小班 9月12日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ヤチダモ・ハシドイ)	平坦	なし	1	1	2008-12年 3.8	累積 4.4	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	55 /200 m ²	1.246 m ² /200 m ²	37 /200 m ² 食痕:26/37 70%		27 /200 m ²	10/54 19%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	124 /200 m ²	31/62 50%				38	30%・58.3・13%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ヤチダモ	3	0.722	1	
ハシドイ	44	0.241	35	9
ハルニレ	1	0.091		1
シウリザクラ	1	0.080		
イタヤカエデ	4	0.059	1	
全体	55	1.246	38	10

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	48	48	21
ツリバナ	6	6	3
ハシドイ	6	6	6
オヒョウ	1	1	
ヤチダモ	1	1	1
全体	62	62	31

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	16	0.176	30.3%	58.3	2
ハシドイ	8	0.101	9.2%	109.5	2
オシダ	8	0.062	9.3%	67.0	0
シウリザクラ	15	0.029	5.2%	56.2	8
ヨブスマソウ	12	0.028	5.7%	48.7	0
全体		0.469	79.0%		



清里町南部(川本担当区)の斜里川林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くに斜里川が流れる。やや湿潤な環境のためヤチダモが優占し、ハシドイやハルニレなどが混生する。林床はクマイザサが優占し、ハシドイ(萌芽)やオシダが多く見られる。直近のSPUEは3.8となっている。下枝がある立木(広葉樹)は37本あり、このうちの70%に食痕が見られた。また、ハシドイとハルニレに樹皮剥ぎも認められた。

高さ30cm以上の稚樹はシウリザクラなどの計62本で、このうちの50%に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

なお、近くに砂防ダムがあり、建設時に受けたと見られる攪乱の形跡があるが、現在は植生が回復している。

網走南部 AS08 の結果概要

地区名：AS_3 清里

1085 林班に小班 9月11日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ・シナノキ)	平坦	なし	1	2	2008-12年 2.8	累積 2.6	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	1.413 m ² /200 m ²	22 /200 m ² 食痕:4/22 18%		19 /200 m ²	7 /48 15%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	10 /200 m ²	1/10 10%				24	79%・99.8・ 20%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	11	0.305	4	4
シナノキ	6	0.285	2	
ハリギリ	1	0.268		
イタヤカエデ	19	0.200	7	
ケヤマハンノキ	1	0.159	1	
全体	59	1.413	26	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	4	4	
ミズナラ	3		
イタヤカエデ	1		
オニグルミ	1	1	
キタコブシ	1	1	
全体	15	10	1

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.791	79.3%	99.8	4
トドマツ	2	0.002	0.2%	116.5	0
オオハナウド	1	0.002	0.3%	65.0	0
コンロンソウ	11	0.001	0.7%	20.3	0
イワガラミ	6	0.001	0.8%	10.8	0
全体		0.799	82.2%		



清里町中央部(清里担当区)のペーメン林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。近くにペーメン川が流れる。トドマツが優占し、シナノキやハリギリなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが密生し、その他の植物は少ない。直近の SPUE は 2.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 22 本あり、このうちの 18%に食痕が見られた。また、トドマツに樹皮剥ぎ(角こすり)も認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 10 本で、このうちの 10%に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると思われる。

網走南部 AS09 の結果概要

地区名: AS_3 清里

1097 林班い小班 9月12日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(オヒョウ・キハダ)		緩斜面	北西	1	2	2008-12年 2.3	累積 2.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	49 /200 m ²	0.888 m ² /200 m ²	24 /200 m ²	食痕: 5/24	21%	14/200 m ²	0/46	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/-	-%				10	78%・139.7・ 35%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
オヒョウ	9	0.141	6	
キハダ	1	0.140		
エゾマツ	1	0.137		
イタヤカエデ	18	0.120	12	
シナノキ	5	0.078	3	
全体	49	0.888	25	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	12		
シナノキ	1		
ナナカマド	1		
全体	14		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.090	78.0%	139.7	7
トドマツ	5	0.038	3.0%	125.0	0
ミヤマタタビ	2	0.005	0.5%	100.0	0
ノリウツギ	1	0.005	0.3%	190.0	0
イタヤカエデ	1	0.005	0.3%	190.0	0
全体		1.142	82.5%		



清里町中央部(清里担当区)の江鳶奥林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。農地との距離は近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。オヒョウ、キハダ、イタヤカエデなどの広葉樹が多く、エゾマツが混生する。林床はクマイザサが密生し、その他の植物はごく少ない。直近のSPUEは2.3となっている。下枝がある立木(広葉樹)は24本あり、このうちの21%に食痕が見られた。また、トドマツに樹皮剥ぎ(角こすり)も認められた。

高さ30cm以上の稚樹はなく、それより小さい稚樹には食痕が確認されなかった。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

網走南部 AS10 の結果概要

地区名：AS_3 清里

1099 林班れ小班

9月20日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ミズナラ・ナナカマド)	緩斜面	西北 西	1	2	2008-12年 2.3	累積 2.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	76 /200 m ²	1.350 m ² /200 m ²	48 /200 m ² 食痕:10/48 21%		43/200 m ²	4/66 6%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	36 /200 m ²	13/36 36%		30	59%・99.6・ 15%	0.671・0.048(1.35)・0.036	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	1	0.810		
ナナカマド	14	0.213	8	3
シナノキ	6	0.118	2	
シウリザクラ	2	0.072	1	
アオダモ	4	0.049	3	
全体	76	1.350	56	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	35	35	13
トドマツ	32		
エゾマツ	9		
シナノキ	1	1	
全体	77	36	13

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.587	59.0%	99.6	3
ハウチワカエデ	6	0.028	3.6%	79.0	2
トドマツ	6	0.027	4.1%	66.3	0
ゴンゲンスゲ	13	0.018	12.7%	14.2	0
シラネワラビ	6	0.002	0.9%	19.2	0
全体		0.671	85.9%		



清里町中央部(清里担当区)の江鳶奥林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。標高は 500m を超えて、今年度の調査地の中ではかなり高い。ミズナラ、ナナカマド、シナノキなどの広葉樹が多い。林床はクマイザサが散生または密生し、ゴンゲンスゲや高木稚樹が生育する。直近の SPUE は 2.3 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 48 本あり、このうちの 21% に食痕が見られた。また、ナナカマドなどに樹皮剥ぎも認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 36 本で、このうちの 36% に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサなどに食痕が確認された。

網走南部 AS11 の結果概要

地区名：AS_3 清里

1105 林班い小班 9月11日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(モイワボダイジュ・イチイ)	緩斜面	北	1	1	2008-12年 1.8	累積 2.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	38 /200 m ²	2.278 m ² /200 m ²	22 /200 m ² 食痕:2/22 9%		14/200 m ²	1/28 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	84 /200 m ²	20/42 48%				39	40%・72.3・ 5%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
モイワボダイジュ	9	0.468	7	
イチイ	1	0.354		
エゾマツ	2	0.297	1	
カラマツ	1	0.256		
ダケカンパ	1	0.255		
全体	38	2.278	26	1

※BAは胸高直径断面積の総和

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	38	36	20
トドマツ	3		
ハウチワカエデ	3	3	
イタヤカエデ	1	1	
ツリバナ	1	1	
全体	47	42	20

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.288	39.9%	72.3	1
シウリザクラ	10	0.041	5.2%	78.3	0
ハウチワカエデ	3	0.020	2.2%	92.7	0
ゴンゲンスゲ	8	0.019	10.3%	18.0	0
クルマバソウ	19	0.009	4.8%	19.5	0
全体		0.408	70.2%		



清里町東部(清里担当区)の智恵柵林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している(清岳荘に向かう清里公園線との分岐付近)。近くにチエサクエトンビ川が流れている。農地との距離も近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。モイワボダイジュが優占し、イチイ、エゾマツといった針葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生または密生し、ゴンゲンスゲやクルマバソウ、高木稚樹が生育する。直近の SPUE は 1.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 22 本あり、このうちの 9% に食痕が見られた。樹皮剥ぎは認められなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなどの計 42 本で、このうちの 48% に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

網走南部 AS12 の結果概要

地区名：AS_4 斜里

1412 林班ほ小班

9月19日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ダケカンバ・シナノキ)	緩斜面	北西	1	2	2008-12年 1.9	累積 2.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	73 /200 m ²	1.129 m ² /200 m ²	32 /200 m ² 食痕:0/32 0%		26/200 m ²	2/51 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	3 /200 m ²	0/3 0%					

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ダケカンバ	3	0.265		
シナノキ	8	0.224	5	
トドマツ	17	0.118	16	1
オヒョウ	7	0.108	3	
イタヤカエデ	8	0.086	4	
全体	73	1.129	49	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	23		
エゾマツ	5		
ノリウツギ	3	3	
全体	31	3	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.221	87.8%	139.2	4
トドマツ	3	0.010	1.6%	62.0	0
ツタウルシ	9	0.005	2.7%	20.1	0
シウリザクラ	4	0.001	0.3%	28.0	0
シナノキ	1	0.001	0.2%	45.0	0
全体		1.239	93.2%		



斜里町西部(斜里担当区)の富士林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。斜里岳の山麓に位置し、標高は約 330m とやや高い。農地との距離も近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。ダケカンバ、シナノキ、オヒョウなどの広葉樹と、トドマツが混生する。林床はクマイザサが密生し、ツタウルシやトドマツ稚樹などがまばらに生育する。直近の SPUE は 1.9 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 32 本あったが、食痕が見られなかった。トドマツに樹皮剥ぎ(角こすり)、シウリザクラに樹皮剥ぎが各 1 本認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹はノリウツギの 3 本だけで、食痕は確認されなかった。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

網走南部 AS13 の結果概要

地区名：AS_4 斜里

1417 林班に小班

9月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林 (ダケカンバ・ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2008-12年 1.9	累積 2.6	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	67 /200 m ²	0.807 m ² /200 m ²	36 /200 m ²	食痕: 5/36	14%	28/200 m ²	0/45	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	3 /200 m ²	0/3	0%			10	82%・109.3・5%	0.899・0.001 (0.24)・0.005

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ(本)
ダケカンバ	9	0.219	1	
ミズナラ	7	0.214	7	
トドマツ	12	0.147	12	
イタヤカエデ	14	0.080	13	
ナナカマド	12	0.077	6	
全体	67	0.807	49	

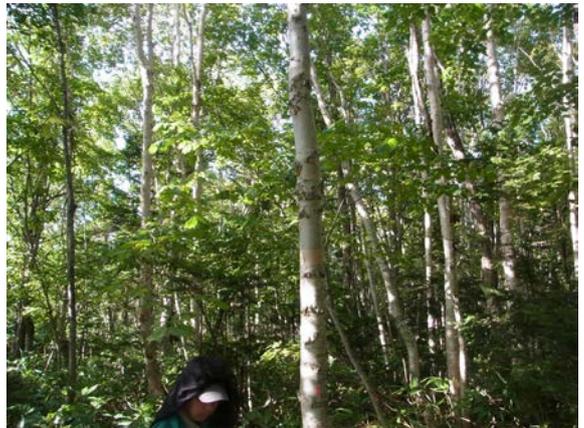
※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	24		
エゾマツ	4		
シウリザクラ	4	2	
オヒヨウ	1	1	
全体	33	3	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.893	81.8%	109.3	1
ナナカマド	2	0.002	0.3%	80.0	0
イワガラミ	7	0.002	1.2%	14.3	0
トドマツ	3	0.001	0.2%	40.0	0
ミズナラ	10	0.000	0.3%	14.5	0
全体		0.899	84.0%		



斜里町西部 (斜里担当区) の富士林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。斜里岳の山麓に位置する。農地との距離も近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。ダケカンバ、ミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹と、トドマツが混生する。林床はクマイザサが密生し、イワガラミや高木稚樹などがまばらに生育する。直近の SPUE は 1.9 となっている。下枝がある立木 (広葉樹) は 36 本あり、このうちの 14% に食痕が見られた。樹皮剥ぎは認められなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹はシウリザクラなど計 3 本だけで、食痕は確認されなかった。林床植物ではクマイザサに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

網走南部 AS14 の結果概要

地区名：AS_4 斜里

1212 林班ほ小班

9月13日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ミズナラ・トドマツ)		緩斜面	南東	1	2	2008-12年 2.9	累積 2.6	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	108 /200 m ²	2.062 m ² /200 m ²	45 /200 m ²	食痕:9/45 20%	53 /200 m ²	2/60	3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	13 /200 m ²	6/13 46%	46				12%・74.8・ 7%	0.392・0.237(3.22)・0.074

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	8	0.719	3	
トドマツ	42	0.347	27	
イタヤカエデ	6	0.274	4	
ダケカンバ	2	0.235	1	
ハリギリ	3	0.128		
全体	108	2.062	74	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	105		
アズキナシ	6	5	2
アオダモ	2	2	
イタヤカエデ	2	2	1
エゾマツ	2		
全体	122	13	6

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
トドマツ	17	0.218	26.1%	83.4	0
クマイザサ	5	0.045	6.0%	74.8	1
チシマザサ	10	0.037	6.0%	61.3	0
ミヤマガマズミ	14	0.035	8.7%	40.8	4
ミズナラ	18	0.015	7.6%	19.8	1
全体		0.392	78.9%		



斜里町西部(峰浜担当区)の峰浜林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。海別岳の山麓に位置し、やや急な尾根となっている。ミズナラ、イタヤカエデ、ダケカンバなどの広葉樹と、トドマツが混生する。林床はトドマツ稚樹やミズナラの当年実生が多く生育し、クマイザサやチシマザサが散生する。直近のSPUEは2.9となっている。下枝がある立木(広葉樹)は45本あり、このうちの20%に食痕が見られた。樹皮剥ぎはエゾマツ(角こすり)とイチイに認められた。

高さ30cm以上の稚樹はアズキナシなど計13本で、このうちの46%に食痕が確認された。林床植物ではミヤマガマズミやクマイザサなどに食痕が確認された。

ササの被度が小さいことについては、冬期間のシカの採餌圧による可能性がある。

網走南部 AS15 の結果概要

地区名：AS_4 斜里

1213 林班ら小班

9月13日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(モイワボダイジュ・オヒョウ)		平坦	なし	1	2	2008-12年 4.3	累積 3.6	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	0.925 m ² /200 m ²	27 /200 m ² 食痕:13/27 48%			22/200 m ²	4/52 8%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	44 /200 m ²	27/44 61%					46	34%・103.2・ 11%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
モイワボダイジュ	5	0.229		
オオバボダイジュ	4	0.147	3	
オヒョウ	1	0.118		1
シウリザクラ	5	0.082	2	
アズキナシ	3	0.070	1	
全体	59	0.925	31	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	20	20	10
トドマツ	11		
イタヤカエデ	6	6	4
ツリバナ	4	4	3
ハシドイ	4	4	2
全体	55	44	27

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	18	0.352	34.1%	103.2	2
ツタウルシ	16	0.032	12.3%	25.8	1
ゴンゲンスゲ	14	0.025	14.3%	17.8	0
オンダ	4	0.025	5.4%	45.8	0
ジュウモンジシダ	6	0.009	2.6%	33.3	0
全体		0.482	82.0%		



斜里町西部(峰浜担当区)の峰浜林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。海別岳の山麓に位置し、近くに糠真布川が流れている。農地との距離がやや近いが、林縁に長大な防鹿柵が設けられていて、隔離されている。モイワボダイジュ、オオバボダイジュなどの広葉樹が多く生育する。林床はクマイザサが散生し、ツタウルシ、ゴンゲンスゲが混生する。直近のSPUEは4.3となっている。下枝がある立木(広葉樹)は27本あり、このうちの48%に食痕が見られた。樹皮剥ぎはオヒョウなどに認められた。

高さ30cm以上の稚樹はシウリザクラなど計44本で、このうちの61%に食痕が確認された。林床植物ではクマイザサやツタウルシなどに食痕が確認された。

根釧東部 KE01 の結果概要

地区名：KE_1 養老牛

421 林班ち小班

9月9日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2008-12年	4.3	累積 3.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	42 /200 m ²	0.831 m ² /200 m ²	13 /200 m ² 食痕:0/13 0%		11/200 m ²	6/24 25%(0%)			
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	2 /200 m ²	1/2 50%			13	73%・57.5・0%		0.435・0.011(4.52)・0.002	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	18	0.677	8	
シラカンバ	1	0.097		
トドマツ	17	0.049	14	4
イタヤカエデ	6	0.008	5	2
全体	42	0.831	27	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	9	2	1
イタヤカエデ	1		
トドマツ	1		
全体	11	2	1

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
ミヤコザサ	20	0.421	73.3%	57.5	0
ウスイロスゲ	10	0.011	3.5%	30.9	0
ミズナラ	7	0.001	0.6%	17.8	1
カラマツソウ属の一種	3	0.001	0.2%	44.3	0
ミミコウモリ	2	0.000	0.1%	37.5	0
全体		0.435	78.3%		



中標津町西春別の虹別林道沿いで、斜面を登った平坦な広葉樹林に調査区を設定している。周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分はそのすき間に残存している小規模な天然林である。林相はミズナラ林であり、林冠木のほとんどをミズナラが占める。下層にはトドマツが植栽されている。

林床はミヤコザサが密生し、ウスイロスゲやミズナラがわずかに見られる。直近の SPUE は 4.3 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 13 本/200 m²あり、全て食痕は見られなかった。樹皮剥ぎ・角こすりは、トドマツやイタヤカエデなど 6 本あり、痕跡率は 25%だった。

高さ 30cm 以上の稚樹はミズナラ 2 本で、このうち 1 本に食痕が確認された。林床植物ではササの食痕は確認されず、他ではミズナラで見られた程度だった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE02 の結果概要

地区名：KE_1 養老牛

436 林班ら小班

9月13日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	平坦	なし	1	2	2008-12年 4.3	累積 3.5	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	30 /200 m ²	0.472 m ² /200 m ²	23 /200 m ² 食痕:21/23 91%		10/200 m ²	0/30 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%		16	73%・70.2・20%	0.635・0.097(3.80)・0.026	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果－主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	30	0.472	23	
全体	30	0.472	23	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	7		
全体	7		

林床植生調査結果－主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
ミヤコザサ	20	0.512	73.0%	70.2	4
トクサ	20	0.063	11.9%	53.2	0
ウスイロスゲ	16	0.034	12.9%	26.2	0
カラマツソウ属の一種	11	0.019	3.0%	63.6	0
スズラン	9	0.002	1.0%	23.2	0
全体		0.635	103.6%		



中標津町西春別の虹別林道沿いで、小沢沿いの平坦な広葉樹林に調査区を設定している。周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分はそのすき間に残存している小規模な天然林である。林相はミズナラ林であり、林冠木は全てミズナラが占める。

林床はミヤコザサが密生し、そのほかにトクサと、ウスイロスゲが上位を占めるわずかに見られる。直近の SPUE は 4.3 となっている。下枝がある立木（広葉樹）は 23 本/200 m²あり、食痕率は 91% だった。樹皮剥ぎは見られなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物ではミヤコザサの食痕率は 20% だった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE03 の結果概要

地区名：KE_1 養老牛

440 林班へ小班

9月12日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(ミズナラ)		緩斜面	北東	2	2	2008-12年	3.9	累積 3.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	26 /200 m ²	0.726 m ² /200 m ²	16 /200 m ²	食痕:11/31	35%	2/200 m ²	0/25	0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%			6	85%・82.7・80%		0.708・0.004(31.30)・0.000	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	42	1.209	26	
ハルニレ	3	0.082	2	
イタヤカエデ	1	0.075		
ヤマウルシ	2	0.036		
ハリギリ	1	0.027		
全体	52	1.452	31	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	11		
全体	11		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.705	85.3%	82.7	16
トクサ	4	0.004	1.0%	36.0	0
ミズナラ	1	0.000	0.1%	23.0	0
ミヤマネズミガヤ	1	0.000	0.0%	59.0	0
ユキザサ	1	0.000	0.0%	34.0	0
全体		0.708	86.3%		



中標津町西春別の虹別林道沿いで、沢沿い河畔の広葉樹林に調査区を設定している。カンジウシ川の左岸に位置し、周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分は沢沿いに残存している天然林である。林相はミズナラ林であり、林冠木はほとんどをミズナラが占める。

林床はクマイザサが密生し、そのほかにトクサなどがわずかに見られる。直近の SPUE は 3.9 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 16 本/200 m²あり、食痕率は 35%だった。樹皮剥ぎは見られなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物ではクマイザサの食痕率が 80%と高かった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE04 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

448 林班よ小班

9月12日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	平坦	なし	2	2	2008-12年 1.7	累積 3.3	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	27 /200 m ²	0.665 m ² /200 m ²	13 /200 m ² 食痕:17/25 68%		9/200 m ²	1/25 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	0/1 0%		8	82%・77.5・35%	0.707・0.050(1.94)・0.026	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	26	1.133	10	
ヤマナラシ	2	0.070		
イタヤカエデ	16	0.061	10	1
シラカンバ	1	0.020		
ハルニレ	2	0.020	2	
全体	49	1.324	23	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ミズナラ	3	1	
全体	3	1	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
ミヤコザサ	20	0.632	81.5%	77.5	7
サップロスゲ	12	0.032	9.3%	34.0	0
カラマツソウ属の一種	9	0.026	5.1%	50.1	0
ウスイロスゲ	8	0.018	5.9%	31.3	0
ミズナラ	3	0.000	0.1%	14.0	0
全体		0.707	101.9%		



中標津町養老牛の道道沿いで、川沿いの平坦な広葉樹林に調査区を設定している。パウシベツ川の右岸に位置し、周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分は沢沿いに残存している天然林である。林相はミズナラ林であり、林冠木はほとんどをミズナラが占め、下層にはイタカカエデも見られる。

林床はミヤコザサが密生し、そのほかにサップロスゲやカラマツソウ属の一種トクサなどがわずかに見られる。直近の SPUE は 1.7 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 13 本/200 m²あり、食痕率は 68%だった。樹皮剥ぎ・角こすりは 1 本のみ見られた。

高さ 30cm 以上の稚樹はミズナラ 1 本で、食痕は確認されなかった。林床植物ではミヤコザサの食痕率は 35%と高かった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE05 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

489 林班そ小班

9月11日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(オニグルミ等)		緩斜面	南東	1	2	2008-12年	2.5	累積 2.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	84 /200 m ²	0.648 m ² /200 m ²	47 /200 m ²	食痕:21/47	45%	34/200 m ²	0/84	0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	2 /200 m ²	2/2	100%		1	85%・107.0・20%	0.910・0.000(0)・0.000		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
オニグルミ	9	0.292	1	
ハルニレ	12	0.072	8	
ハシドイ	42	0.069	30	
オヒョウ	6	0.054	4	
キハダ	3	0.039		
全体	84	0.648	47	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	2	2	2
全体	2	2	2

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(?/m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.910	85.0%	107.0	4
全体		0.910	85.0%		



中標津町開陽の虹別林道沿いで、沢沿い面した斜面部の広葉樹林に調査区を設定している。ポン俣落林道との合流点に近い沢の右岸に位置し、周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分は沢沿いに残存している天然林である。林相はオニグルミやハルニレ・オヒョウ、ハシドイが見られる湿性林である。林床はクマイザサが密生し、他の植物はほとんど見られない。直近の SPUE は 2.5 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 47 本/200 m²あり、食痕率は 45%だった。樹皮剥ぎは見られなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹はハシドイ 2 本でいずれも食痕が見られた。林床植物ではクマイザサの食痕率は 20%だった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE06 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

490 林班れ小班

9月11日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面	南東	2	2	2008-12年	3.8	累積 3.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未滿	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	27 /200 m ²	0.668 m ² /200 m ²	10 /200 m ²	食痕: 8/20	40%	7/200 m ²	4/21	20%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]			
	0 /200 m ²	-/- -%		4	90%・113.7・0%	1.036・0.000(0)・0.016			

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	2	0.527		
アカエゾマツ	11	0.279		11,2788
オヒョウ	14	0.200	6	3
キハダ	11	0.177	2	1
イタヤカエデ	3	0.046	3	
全体	43	1.282	11	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
アカエゾマツ	1		
全体	1		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.020	89.8%	113.7	0
ヨブスマソウ	1	0.013	1.0%	128.0	0
ミヤママタタビ	3	0.003	0.8%	40.3	0
サラシナショウマ	1	0.000	0.1%	28.0	0
全体		1.036	91.6%		



中標津町開陽の虹別林道沿いで、沢沿い面した斜面部の広葉樹林に調査区を設定している。沢の右岸に位置し、周辺はカラマツやトドマツの人工林に囲まれていて、この林分は沢沿いに残存している天然林である。林相は植栽されたアカエゾマツのほか、オヒョウ、キハダが多い。林床はクマイザサが密生し、そのほかヨブスマソウ・ミヤママタタビなどが見られる。直近の SPUE は 3.8 となっている。下枝がある立木（広葉樹）は 10 本/200 m²あり、食痕率は 40%だった。樹皮剥ぎは 4 本見られ、食痕率は 20%だった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物ではクマイザサの食痕率は 0%だった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE07 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

508 林班い102 小班

9月10日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面	北西	1	1	2008-12年	3.8	累積 3.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	220 /200 m ²	1.120 m ² /200 m ²	32 /200 m ²	食痕:13/32	41%	145/200 m ²	7/82	9%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	0 /200 m ²	-/- -%			10	63%・70.1・30%	0.444・0.002(1.78)・0.001		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	130	0.695	71	6
ウダイカンバ	2	0.073		
エゾマツ	1	0.065	1	
ミズナラ	5	0.052	1	
ダケカンバ	2	0.046		
全体	220	1.120	105	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	20		
全体	20		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	0.440	62.8%	70.1	6
トドマツ	2	0.002	0.5%	48.0	0
アオダモ	2	0.001	0.8%	18.0	2
ミヤマタタビ	1	0.000	0.0%	4.0	0
ミズナラ	1	0.000	0.0%	19.0	0
全体		0.444	64.0%		



中標津町開陽の俣落連絡林道沿いの若齢で小径木が高密度に生育する針広混交林に調査区を設定している。育成天然林で、トドマツは植栽されたものも含まれている可能性がある。林相はこのトドマツが優占するほか、ミズナラ、ウダイカンバなどが林冠に見られる。下層には、トドマツ、アオダモやイタヤカエデが多い。林床はクマイザサが密生し、そのほかの植物ではトドマツやアオダモが見られるが被度は小さい。直近の SPUE は 3.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 32 本/200 m²あり、食痕率は 41%だった。樹皮剥ぎ・角こすりは 7 本見られ、ほとんどはトドマツの角こすりで、痕跡率は 9%だった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物ではクマイザサの食痕率は 30%だった。稚樹密度は低い原因はササによる被圧が考えられる。

根釧東部 KE08 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

511 林班は 02 小班

9月10日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(オヒョウ等)		斜面	北西	1	2	2008-12年	3.8	累積 3.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	45 /200 m ²	0.422 m ² /200 m ²	34 /200 m ²	食痕:6/34 18%	17/200 m ²	9/41	22%(2%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]			
	13 /200 m ²	1/13 8%		35	15%・80.1・0%	0.411・0.249(5.88)・0.042			

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
オヒョウ	4	0.177	2	1
イタヤカエデ	10	0.072	5	
キハダ	3	0.065		1
アオダモ	13	0.060	12	5
ダケカンバ	4	0.022	4	
全体	45	0.422	34	9

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ヤマグワ	7	7	
アオダモ	5	5	
オヒョウ	1	1	1
全体	13	13	1

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	8	0.120	15.0%	80.1	0
オシダ	11	0.111	18.5%	59.9	0
シラネウラボ	16	0.097	25.3%	38.3	0
ホソイノデ	1	0.010	1.5%	68.0	0
オオウバユリ	1	0.009	1.0%	92.0	0
全体		0.411	86.9%		



中標津町開陽の俣落連絡林道沿いの斜面に生育する広葉樹林に調査区を設定している。林相は林冠にオヒョウ、イタヤカエデ、キハダ、アオダモなどが優占する。林床はクマイザサが疎性するほか、オシダやシラネウラボが優占する。中標津地域の調査区はササが密生する場所が多いが、この調査区は例外的にササの優占度が低い。直近の SPUE は 3.8 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 34 本/200 m²あり、食痕率は 18%だった。樹皮剥ぎは 9 本見られ、食痕率は 22%だった。

高さ 30cm 以上の稚樹は 13 本あり、ヤマグワ、アオダモ、オヒョウで、オヒョウのみ食痕が見られ、食痕率は 8%だった。林床植物ではクマイザサの食痕率は 0%で、他の被度が上位の植物も食痕は見られなかった。

根釧東部 KE09 の結果概要

地区名：KE_2 中標津

512 林班や小班

9月10日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹林(ミズナラ等)		緩斜面	南	1	2	2008-12年	4.6	累積 4.0	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	81 /200 m ²	1.033 m ² /200 m ²	52 /200 m ²	食痕:13/52	25%	29/200 m ²	7/81	9%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	6 /200 m ²	5/6	83%		6	82%・123.1・0%	1.015・0.001(0.06)・0.009		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	2	0.226	1	
ハリギリ	3	0.217		
ヤマグワ	8	0.125	4	1
イタヤカエデ	9	0.109	5	
ハシドイ	34	0.065	27	2
全体	81	1.033	52	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	5	5	4
ヤマグワ	2	1	1
全体	7	6	5

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.006	81.8%	123.1	0
ヤマグワ	1	0.007	0.5%	147.0	1
ハシドイ	2	0.001	0.1%	104.5	2
フッキソウ	6	0.001	0.3%	17.2	0
コンロンソウ	4	0.000	0.1%	14.3	0
全体		1.015	82.8%		



中標津町開陽のクテグンベツ林道沿いの平坦地に生育する広葉樹林に調査区を設定している。林相は林冠にミズナラ、ハリギリ、イタヤカエデなどが優占する。林床はクマイザサが密生するほか、ハシドイやヤマグワなどが見られる。直近の SPUE は 4.6 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 52 本/200 m²あり、食痕率は 25%だった。樹皮剥ぎは 7 本見られ、食痕率は 9%だった。

高さ 30cm 以上の稚樹は 6 本あり、5 本に食痕が見られた。林床植物ではクマイザサの食痕率は 0%で、他の被度が上位の植物では、ハシドイやヤマグワに食痕が見られた。

根釧東部 KE10 の結果概要

地区名：KE_3 川北

13 林班で小班

9月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林(オヒョウ)		平坦	なし	1	2	2008-12年	1.8	累積 3.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)			
	45 /200 m ²	0.752 m ² /200 m ²	28 /200 m ²	食痕: 9/28 32%	18/200 m ²	0/42	0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]			
	0 /200 m ²	-/- -%		4	99%・157.6・0%	1.617・0.000(0)・0.065			

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
オヒョウ	9	0.273	5	
ダケカンバ	2	0.266		
アオダモ	5	0.059	5	
ミズナラ	2	0.035	1	
ケヤマハンノキ	1	0.028		
全体	45	0.752	29	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
なし			
全体	0	0	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.552	98.5%	157.6	0
アオダモ	2	0.063	3.0%	208.5	1
ミヤママタタビ	1	0.002	0.2%	165.0	0
ミズナラ	1	0.000	0.0%	182.0	0
全体		1.617	101.7%		



標津町(川北担当区)の国道 244 号沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くに忠類川が流れている。オヒョウ、ダケカンバなどの広葉樹が多く生育する二次林である。林床はクマイザサが密生し、アオダモやミヤママタタビがわずかに混生する。直近の SPUE は 1.8 だが、累積では 3.4 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 28 本あり、このうちの 32%に食痕が見られた。樹皮剥ぎは認められなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物ではアオダモに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

シカの利用は全般にかなり低いと思われる。

根釧東部 KE11 の結果概要

地区名：KE_3 川北

79 林班ち小班

9月18日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ダケカンバ・ミズナラ)		平坦	なし	1	2	2008-12年 4.2	累積 3.8	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	99 /200 m ²	1.377 m ² /200 m ²	30 /200 m ² 食痕:1/30 3%		35 /200 m ²	23/75 31%(3%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%			2	93%・139.0・0%	1.293・0.000(0)・0.001	

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ダケカンバ	7	0.414		
ミズナラ	13	0.306	6	
トドマツ	15	0.191	8	4
ハリギリ	5	0.090		
シナノキ	1	0.078	1	
全体	99	1.377	39	23

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	1		
全体	1		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.292	93.0%	139.0	0
ノリウツギ	1	0.001	0.3%	40.0	0
全体		1.293	93.3%		



標津町(川北担当区)の金山薫別林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くに薫別川が流れ、段丘斜面が形成されている。ダケカンバ、ミズナラなどの広葉樹が多く生育する二次林である。林床はクマイザサが密生し、ノリウツギがわずかに混生する。直近のSPUEは4.2となっている。下枝がある立木(広葉樹)は30本あり、このうちの3%に食痕が見られた。また、トドマツなどに樹皮剥ぎ(トドマツは角こすり)が認められた。

高さ30cm以上の稚樹は確認されなかった。林床植物にも食痕は確認されなかった。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

周辺のSPUE値はやや高いが、現在この調査区付近におけるシカの利用は全般に低いと思われる。

根釧東部 KE12 の結果概要

地区名：KE_3 川北

79 林班り小班

9月17日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ・ミズナラ)	平坦	なし	2	2	2008-12年 4.2	累積 3.8	食痕
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200 m ²	0.733 m ² /200 m ²	12 /200 m ²	食痕:2/24 8%	12/200 m ²	5/32	14%(3%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%		4	91%・123.4・5%	1.120・0.000(0.01)・0.000	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
トドマツ	34	0.583	20	4
ミズナラ	10	0.284	6	
ヤチダモ	7	0.114		
ダケカンバ	3	0.059		
ミズキ	2	0.045		
全体	85	1.351	36	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	5		
全体	5		

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	20	1.120	90.8%	123.4	1
アオダモ	2	0.000	0.1%	14.5	0
イワガラミ	1	0.000	0.1%	16.0	0
シラネウラボ	1	0.000	0.0%	5.0	0
全体		1.120	90.9%		



標津町(川北担当区)の金山薫別林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くにアシスピラオマナイ川(薫別川支流)が流れている。トドマツが優占し、ミズナラ、ヤチダモなどの広葉樹が混生する二次林である。林床はクマイザサが密生し、アオダモやイワガラミなどがわずかに混生する。直近の SPUE は 4.2 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 12 本/200m²あり、このうちの 8%に食痕が見られた。また、トドマツなどに樹皮剥ぎ(トドマツは角こすり)が認められた。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物にも食痕は確認されなかった。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

周辺の SPUE 値はやや高いが、現在この調査区付近におけるシカの利用は全般に低いと思われる。

根釧東部 KE13 の結果概要

地区名：KE_3 川北

84 林班る小班 9月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ヤチダモ・ミズナラ)	平坦	なし	1	2	2008-12年 4.2	累積 3.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	0.837 m ² /200 m ²	23 /200 m ² 食痕:2/23 9%		14 /200 m ²	0/52 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%				5	100%・147.0・0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (m ²)	下枝あり (本)	樹皮 はぎ(本)
ヤチダモ	16	0.261	1	
ミズナラ	8	0.244	4	
オヒョウ	7	0.125	5	
ハリギリ	1	0.073		
ミズキ	2	0.039		
全体	54	0.837	25	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数 (本)	30cm以上 本数(本)	食痕あり (本)
なし			
全体	0	0	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形 区数	現存量 (? /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 数
クマイザサ	20	1.470	100.0%	147.0	0
ノリウツギ	2	0.044	2.0%	217.5	1
アカエゾマツ	4	0.016	0.9%	185.0	0
ミズナラ	2	0.005	0.3%	153.0	0
ツルウメドキ	1	0.000	0.1%	49.0	1
全体		1.534	103.2%		



標津町(峰浜担当区)の薫別林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くに崎無異川が流れている。ヤチダモ、ミズナラ、オヒョウなどの広葉樹が混生する二次林である。林床はクマイザサが密生し、ノリウツギやアカエゾマツなどがまばらに混生する。直近の SPUE は 4.2 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 23 本あり、このうちの 9%に食痕が見られた。樹皮剥ぎは認められなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。林床植物にも食痕は確認されなかった。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

周辺の SPUE 値はやや高いが、現在この調査区付近におけるシカの利用は全般に低いと思われる。

根釧東部 KE14 の結果概要

地区名：KE_3 川北

86 林班わ小班

9月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ケヤマハンノキ・ヤチダモ)	緩斜面	東北 東	1	2	2008-12年 4.2	累積 3.8	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	65 /200 m ²	0.641 m ² /200 m ²	54 /200 m ² 食痕:3/54 6%		31 /200 m ²	11/63 17%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	0/1 0%		42	73%・106.4・ 0%	0.798・0.013(1.24)・ 0.011	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ケヤマハンノキ	25	0.545	21	2
ヤチダモ	29	0.044	25	6
ミズナラ	1	0.021	1	
トドマツ	2	0.016	1	
アオダモ	6	0.012	6	2
全体	65	0.641	55	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
アオダモ	1	1	
全体	1	1	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	19	0.774	72.8%	106.4	0
オクノカンスゲ?	6	0.009	4.5%	19.0	0
ホガエリガヤ	5	0.002	1.2%	19.8	3
ヤチダモ	1	0.002	0.5%	46.0	0
オオタチツボスミレ	8	0.002	2.6%	8.3	2
全体		0.798	85.5%		



標津町(峰浜担当区)の薫別林道沿いに広がる針広混交林(広過混交林)に調査区を設定している。近くに崎無異川が流れている。ケヤマハンノキが優占し、ヤチダモ、ミズナラなどの広葉樹が混生する二次林である。林床はクマイザサが密生し、スゲ類やホガエリガヤなどがまばらに混生する。直近のSPUEは4.2となっている。下枝がある立木(広葉樹)は54本あり、このうちの6%に食痕が見られた。また、ヤチダモやケヤマハンノキなどに樹皮剥ぎが認められた。

高さ30cm以上の稚樹はアオダモ1本のみで、食痕は確認されなかった。林床植物では、ホガエリガヤやオオタチツボスミレに食痕が確認された。

稚樹が少ないことについては、ササの被圧によると考えられる。

根釧東部 KE15 の結果概要

地区名：KE_3 川北

99 林班り 01 小班 9月19日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(ミズナラ・ハリギリ)	斜面	南南西	1	2	2008-12年 7.9	累積 6.7	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	56 /200 m ²	2,320 m ² /200 m ²	27 /200 m ² 食痕:1/27 4%		14 /200 m ²	6 /42 14%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	-/- -%				1	95%・150.7・ 0%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	総BA(m ²)	下枝あり(本)	樹皮はぎ(本)
ミズナラ	22	1,554	12	
ハリギリ	1	0.396		
ダケカンバ	5	0.166	1	
トドマツ	9	0.138	4	
ケヤマハンノキ	1	0.026	1	
全体	56	2,320	31	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種名	本数(本)	30cm以上本数(本)	食痕あり(本)
なし			
全体	0	0	

林床植生調査結果—主な植物

種名	方形区数	現存量(? /m ²)	被度(%)	平均高(cm)	食痕数
クマイザサ	19	1.432	95.0%	150.7	0
全体		1.432	95.0%		



標津町(峰浜担当区)の植崎林道沿いに広がる針広混交林に調査区を設定している。近くに元崎無異川が流れている。ミズナラが優占し、ハリギリ、ダケカンバなどの広葉樹とトドマツが混生する。林床はクマイザサが密生し、他の林床植物はほとんど生育しない。直近の SPUE は 7.9、累積は 6.7 となっている。下枝がある立木(広葉樹)は 27 本あり、このうちの 4%に食痕が見られた。また、アオダモなどに樹皮剥ぎが認められたが、新しいものはなかった。

高さ 30cm 以上の稚樹は確認されなかった。

稚樹がほとんどないことについては、ササの被圧によると思われる。

周辺の SPUE 値はかなり高いが、現在この調査区付近におけるシカの利用は全般に低いと思われる。